（藤嶋昭・かこさとし　村上武利・中田一弥・落合剛・野村知生　共著　偕成社）

「太陽と光しょくばいものがたり」

川崎市立向丘小学校二年　長田（おさだ）　恵茉（えま）

夏休みのとてもあつい日でした。お父さんが家のやねにのって、こけそうじをしました。

「すべりやすくてこわいな。」

と言いながら、お父さんは作ぎょうをしていました。わたしも、お父さんがのむ水や、こけをながすバケツの水を何回もはこんで手つだいました。でも、「やねからおちちゃったらどうしよう」と、こわくて心ぱいでした。そんな時に、お父さんがやねへ出入りしていたへやで、「太ようと光しょくばいものがたり」を見つけました。

光しょくばいをぬると、太ようの光が当たるだけでよごれがばらばらになって、水をかけるとよごれもいっしょにながれると書いてありました。たてもののやねやかべにもつかわれていることを知って、「これだ」と思いました。わたしの家のかべは、白いのですが、黒くよごれやすいので、お父さんとお母さんが、はしごに上ってスポンジでみがきます。やねもかべも光しょくばいをぬれば、そんなあぶないことをしなくても、きれいな家でいられると思いました。そして、光しょくばいは、カビやウイルスも少なくできると書いてあったので、へやの中の電気でも、その力を出せるようになれば、家の外だけでなく、おふろや台どころのような、そうじが大へんな水まわりにもぴったりだと思いました。

光しょくばいのすごさを知って、すぐにいろいろなところにつかえばよいと思いました。でもわたしはまだ本物を見たことがありません。本に出ていたじっけんも、自分でやってみたいと思いました。本のさいごで、世界で一つの光しょくばいミュージアムが高つ区にあると知りました。お母さんに聞くと、今どつれていってくれると言ってもらえたので楽しみです。新しい光しょくばいのけんきゅうもどんどんすすんで、わたしたちの生活にどんどんつかわれていってほしいです。そうすれば、もっと楽で、もっときれいな生活につながるはずだと思いました。